



## 「奈良大立山まつり」が盛大に開催される

奈良県では、冬の奈良の伝統行事、イベントを集約した冬季誘客キャンペーンの核と位置付ける「奈良大立山まつり」を本年初めて開催。1月29日からの5日間に約5万1千人（主催者発表）が訪れた。

このまつりは、1年で最も少ない1月～2月の奈良への宿泊観光客を、飛躍的に増加させたいとの思いで開催された。

### ■「奈良大立山まつり」の開催趣旨（県発表）

8世紀末に、日本の首都は平安京に移され、政治的な機能は奈良から京都へ移ったが、社寺をはじめとして、精神的な部分は奈良へ残った。このため、今もなお奈良にはたくさんの神事や法会などの儀式が受け継がれている。

「大立山まつり」は、この奈良の伝統に新たな1ページを加えるものとして考えている。年の初めに奈良の神様仏様に「大立山まつり」をいわば法楽のようなものとしてお楽しみいただく。そして、「大立山まつり」をご覧になっている神様仏様に、日本中から集まった人々が一年の無病息災を祈る。「大立山まつり」は、奈良県民、そして、日本中の皆様の無病息災のみならず、世界中の平和を祈る「真幸の祈り」のまつりとして長く根付くものとしていたい。

### ■「奈良大立山まつり」の内容

◆日時：平成28年1月29日～2月2日

◆会場：平城宮跡

◆主なプログラム

#### ○大立山の巡行

県内各地には「立山」という造り物を制作して厄を落とすという風習が残っており、江戸時代に流行した疫病の身代わりとして立て始めたとの説がある。この習わしを奈良独自の呼び方で「立山」と呼んでいる。

「大立山まつり」では、奈良を代表する守護神の一つである四天王（持国天、増長天、広目天、多聞天）に因んだ巨大な（山車を含め高さ約7m）「大立山」を4基制作。灯りを入れた山車に仕立てられた「大立山」が、メイン会場



勇壮な姿の「大立山」



である平城宮跡大極殿院を練り歩いた。

#### ○地域の伝統行事の披露

大極殿前の特設ステージでは、今回の「大立山まつり」命名の由来となった広陵町の「立山祭」や、御所市「ススキ提灯献 灯行事」、曾爾村の「曾爾の獅子舞」など県内市町村による14の伝統行事が披露された。

#### ○あったかもんグランプリの開催

“あたたかい食”をテーマに、県内市町村が地域食材を使用し、工夫をこらした料理が一堂に会した。県内33市町村の屋台が参加した「あったかもんグランプリ」の最優秀賞には高取町の「高取ごんだ鍋」が、優秀賞には安堵町の「あんどあったか芋煮鍋」が選ばれた。

### ■今後の取り組み

県の担当者は、「来場者数は目標を上回ったものの、課題も見えてきた。今回は初回ということで行政が中心であったが、来年以降は地域ぐるみの祭りとなるよう、企画段階から各市町村・企業等と一緒に取り組んでいきたい。」また、「観光消費の増加のためにも、宿泊を伴う各種ツアー商品の企画・PR。加えて周辺飲食店への誘客の工夫も必要」と、来年以降のまつりの継続と、更なる規模拡大を力強く語った。

「奈良大立山まつり」が、夏の「なら燈花会」のように季節の風物詩として広く認知され、冬場の宿泊客増加の起爆剤となることを望んでいる。

（奥 桂子）